

なぜ御仕法が成功したか？

報徳仕法には「ひな形」といわれる仕法のお手本があります。この「ひな形」は、相馬の地で仕法が実施される中で、全国どこでも使える最も優れた「ひな形」にかたちづくられていきました。

江戸時代末期、疲弊した藩のたて直しのために報徳仕法を実施した数多くの藩の中にあって、相馬中村藩がいちばん成果を上げたといわれています。

では、なぜ相馬中村藩の仕法が成功したのでしょうか。

仕法の導入を考えた各地の藩主が受け入れに積極的であっても、上級武士たちの中には農民出身の尊徳を心底受け入れることを否定する気持ちがあったようです。尊徳の生れ故郷小田原藩でさえ、仕法に対して皆が自覚して立ち上がるというまでには至りませんでした。

一方、相馬中村藩はよそに比べると、理解ある優れた藩主や二宮塾で学んだ藩士たちの協力のもと、上も下もなく、藩主も農民も苦しみを共に頑張ろうという協同一致する団結力が仕法の成功に結びつきました。